

表 12 ダイオキシン類測定結果

単位：pg-TEQ/m³

区分	測定日	測定地点			
		北西	北東	南東	南西
解体工事前	平成29年11月7日	0.025	0.022	0.024	0.025
解体工事中	平成29年12月5日	0.023	0.022	0.021	0.021
	平成30年1月6日	0.049	0.040	0.034	0.047
	平成30年2月6日	0.015	0.013	0.015	0.014
	平成30年3月7日	0.0083	0.0073	0.0081	0.0070
	平成30年4月3日	0.016	0.014	0.016	0.013
	平成30年5月2日	0.011	0.0097	0.012	0.0095
	平成30年6月5日	0.013	0.017	0.015	0.016
	平成30年7月3日	0.0058	0.0056	0.0061	0.0042
	平成30年8月2日	0.012	0.011	0.014	0.012
	平成30年9月4日	0.0083	0.016	0.015	0.015
	平成30年10月3日	0.013	0.010	0.010	0.0090
	平成30年11月2日	0.018	0.017	0.019	0.016
	平成30年12月4日	0.11	0.10	0.10	0.095
	平成31年1月8日	0.013	0.031	0.012	0.017
	平成31年2月5日	0.0088	0.0092	0.011	0.011
	平成31年3月2日	0.0085	0.010	0.010	0.010
	平成31年4月2日	0.011	0.010	0.014	0.010
	令和元年5月8日	0.0079	0.0069	0.0075	0.0057
	令和元年6月3日	0.020	0.016	0.017	0.021
	令和元年7月2日	0.029	0.024	0.025	0.029
令和元年8月2日	0.014	0.012	0.019	0.013	
令和元年9月3日	0.020	0.018	0.018	0.019	
令和元年10月2日	0.028	0.027	0.025	0.026	
令和元年11月2日	0.0094	0.0065	0.014	0.0096	
解体工事後	令和元年12月3日	0.0082	0.016	0.020	0.014
環境基準		0.6			

注) 網掛は期間中の各地点の最高値を示す。

(イ) 管理棟及び工場棟の外壁アスベスト対策

除去の際は、養生による飛散防止対策を行った。装材除去の際は、建物を囲い、その中で飛散防止用の塗料を散布の上、集じん装置付き超高压水洗機により除去した（写真12、13参照）。

なお、発生した石綿含有廃棄物及び廃石綿は、「廃棄物処理施設解体時等の石綿飛散防止対策マニュアル」、「建築物の解体等に係るアスベスト飛散防止対策マニュアル」、「アスベスト成形板対策マニュアル」に基づき、湿潤化や保護具の着用などの対策を講じた上で作業を行った。

また、除去物は、ポリ袋にて二重に梱包し、産業廃棄物の許可業者（収集運搬・処分）に処理を委託し、適切に処理した（写真14、15参照）。

(ウ) 粉じん対策

① 煙突解体工事

外筒を残したまま内筒を上部から解体し、その後に外筒を解体した。外筒解体時は、湿潤させながらワイヤーソーにより外筒を短冊状に切断するなどして、粉じんの飛散防止や騒音・振動を低減する措置を講じた（写真16参照）。

② 建築物解体工事

管理棟、工場棟を全覆い仮設テントにて覆い、環境集じん機で解体場所を負圧にし、粉じんが周囲に飛散しないようにした。解体時は適宜散水を行い、粉じん等の発生防止対策を実施した（写真4、5参照）。

さらに、可能な限り建築物地下部を全覆い仮設テント内にて解体した。

また、圧砕機等を使用し、騒音・振動の低減に努めた。



写真1 建設機械の使用状況
(低騒音型、排出ガス対策型)

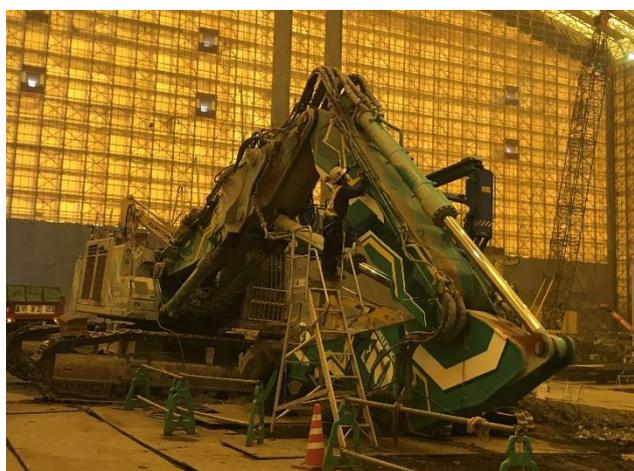


写真2 建設機械の点検状況



写真3 仮囲いの設置状況



写真4 全覆い仮設テント（管理棟）



写真5 全覆い仮設テント（工場棟）



写真6 工事現場の散水状況



写真7 工事用車両の粉じん飛散防止対策
（荷台のシート養生状況）



写真8 工事用車両の粉じん飛散防止対策
（タイヤ洗浄状況）



写真9 工事用車両出入口の清掃状況



写真10 車両排出ガス規制適合車の使用状況



写真 11 保護具の使用状況
(ダイオキシン類)



写真 12 アスベスト飛散防止対策
(建物の養生状況)



写真 13 アスベスト除去作業



写真 14 アスベスト梱包状況



写真 15 アスベスト搬出状況



写真 16 ワイヤソーによる煙突解体状況

4.2 評価書の予測結果と事後調査の結果との比較検討

予測結果が年平均値であるのに対し、事後調査結果は7日間一季の平均値であり、単純に比較することはできないが、全体の傾向を把握するために事後調査結果と予測結果を比較した。

(1) 浮遊粒子状物質

浮遊粒子状物質の予測結果と事後調査結果の比較を表13に示す。

事後調査結果の期間平均値は、0.010~0.014mg/m³、日平均値の最高値は0.013~0.018 mg/m³であり、全ての調査地点で予測結果を下回った。

予測を下回った理由は、事前に工事工程を十分検討し、効率的に建設機械を稼働したことにより、予測よりも建設機械台数が少なかったことや事後調査期間中のバックグラウンド濃度が予測時のバックグラウンド濃度よりも低かったことが考えられる。

表13 予測結果と事後調査結果の比較（浮遊粒子状物質）

単位：mg/m³

地点名	予測結果			事後調査結果		
	バックグラウンド濃度	年平均値	日平均値の2%除外値	バックグラウンド濃度	期間平均値	日平均値の最高値
地点1 敷地境界北西側	0.022	0.025	0.056	0.014	0.014	0.018
地点2 敷地境界北東側					0.013	0.015
地点3 敷地境界南東側					0.010	0.013
地点4 敷地境界南西側					0.014	0.017

注1) 予測結果は評価書のp.231表8.1-46及びp.270表8.1-60を引用した。

注2) バックグラウンド濃度は、資料調査を行った一般環境大気局の期間平均値を示す。

(2) 二酸化窒素

二酸化窒素の予測結果と事後調査結果の比較を表 14 に示す。

事後調査結果の期間平均値は、0.015～0.027ppm、日平均値の最高値は0.023～0.036ppm であり、全ての地点で予測結果を下回った。

予測を下回った理由は、事前に工事工程を十分検討し、効率的に建設機械を稼働したことにより、予測よりも建設機械の稼働台数が少なかったことや事後調査期間中のバックグラウンド濃度が予測時のバックグラウンド濃度を下回っていたことが考えられる。

表 14 予測結果と事後調査結果の比較（二酸化窒素）

単位：ppm

地点名	予測結果			事後調査結果		
	バックグラウンド濃度	年平均値	日平均値の年間 98%値	バックグラウンド濃度	期間平均値	日平均値の最高値
地点 1 敷地境界北西側	0.020	0.031	0.057	0.016	0.020	0.029
地点 2 敷地境界北東側					0.015	0.023
地点 3 敷地境界南東側					0.018	0.029
地点 4 敷地境界南西側					0.027	0.036

注 1) 予測結果は評価書の p. 231 表 8.1-46 及び p. 270 表 8.1-60 を引用した。

注 2) バックグラウンド濃度は、資料調査を行った一般環境大気局の期間平均値を示す。